



但馬やまびこの郷  
令和3年9月  
第47号

不登校児童生徒の保護者のみなさんにお便りします

# やまびこ

兵庫県立但馬やまびこの郷

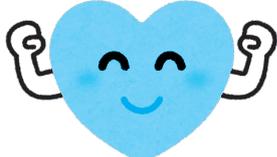
http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/  
E-Mail : Tajimayamabiko@pref.hyogo.lg.jp



## 子どもの心に寄り添う



昨年度は、臨時休業からのスタートでしたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染予防を行いながら、4月からやまびこの郷も学校もスタートしました。度々、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発令され、正に「with コロナ」の今、子どもたちの心にどう寄り添うことができるのでしょうか。



### ✦ 但馬やまびこの郷で ✦

7月に1年4ヵ月ぶりの宿泊体験活動を行いました。2泊3日で、人数も制限した上での実施でしたが子どもたちの笑顔と笑い声があふれていました。但馬やまびこの郷では、子どもたちの心のパワーを高めるために活動のキーワード「寄り添う」、「意思を尊重する」、「認める」、「つなげる」を大切にしています。コロナ禍だからこそ、宿泊体験活動や日帰りでの活動の中で、これまで以上にこの4つのキーワードが大切だと感じています。

### ✦ 県教育委員会の取組紹介 ✦

県教育委員会では、昨年度、小学校7校の5年生と中学校8校の1・2年生の児童生徒を対象にしたアンケートを実施しました。このアンケート結果から、学校等において今後の不登校支援で検討すべき具体的な取組例として、多様な別室支援の検討(短時間、教室とのオンライン等の工夫)や教育支援センター(適応指導教室)と連携した放課後登校等を示しました。また、「新型コロナウイルス感染症の影響に関する心のケアアンケート」を今年5月に小学校6年生と中学校3年生を対象に、小・中学校それぞれ41校で実施しました。その結果から、今後の対応として、①相談体制の充実②スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)等、専門家との連携の充実③ストレスの対処法等、特別授業の実施を示しました。

これらのアンケート結果やストレス対処法動画については、県教育委員会事務局義務教育課のホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



← 義務教育課  
ホームページへは  
こちらから

### ✦ No Rain, No Rainbow ✦

これは、「やまびこ」第46号(令和2年9月)の「まこさんからのメッセージ」の一部です。



どんな危機であれ、大きな危機を乗り越えたとき、私たちは人への思いやりや友情など、本当に大切なものは何か、に気づくことができるようになってきていることでしょうか。そして、こころの「密」な関わりをそれまで以上に大切にするようになってきているのではないのでしょうか。



全文をご覧になりたい方は、当所ホームページをご覧ください。



## コロナ禍の家族の風景

— 学校に行かない子どもとの暮らしは？ —

兵庫県立但馬やまびこの郷所長 佐藤 眞子



新型コロナのパンデミックを受けて、私たちの暮らしは大きく変わりました。昨年の初めに第2波、第3波がくるぞと言われてもピンとこなかったのですが、それから一年半が過ぎて、今は第5波のさなかにいます(8月現在)。新型コロナ感染症拡大はなかなか収まりません。感染して発症した方々は直接的な被害者ですが、感染の危険を冒して治療にあたられている医療従事者の方々、自粛要請によって仕事をなくした方々など、大変な思いをされている方は多くおられます。行動を大きく制限された生活を続けている子どもたちも被害者として忘れてはならない存在です。マスクをつけて街を歩く子ども連れの家族に出会いますと、コロナ禍の中、かけがえのない家族の時間を十分に楽しんでおられますように、と祈りたくなります。

2020年から2021年の前半までに見聞きした「学校に行かない子どもがいる家族の風景」を追ってみます。



### 子どもと「距離」がとれない

2020年4月下旬ころだったかと思いますが、1年くらい前からお子さんの不登校のことで相談を受けていたお母さまからお電話をいただきました。「もう毎日大変なんです。学校が休みになって、私もパート勤務に行くことがなくなって…、みんなで毎日家にいます」と何か切羽詰まった声です。このお母さまは4人のお子さんがおありで、4月7日に緊急事態宣言が出された当時(昨年)は、ご長男が高校1年生、2番目が長女で中学2年生、その下に小学生の男の子が2人。学校が休業になると、「3DKのマンションに子どもがぎっしり」となり、「きょうだいのいろんな組み合わせ」で喧嘩が始まりました。「外で遊ばすことも出来ず(『子どもが公園で遊んでいる』と学校に電話をかける住民がいるらしい)、『密』すぎて子どもと距離がとれません。もう限界です」と悲鳴をあげておられます。「うーん、いちいちきょうだい喧嘩にかかわっては、親がもちませんね。ストレスをためたお子さんたちに対応するのは、それは、それは、大変でしょうね」と私。「食材の買い出しも、毎食分なので大変なんです」と、何度か「大変です」を繰り返されると、「まあ、学校が始まるまで仕方ないですかね」と言って、話が終わりました。私は1年前から登校していない中学2年生の女の子は、急に密になった家族の中で、どんな気持ちで毎日過ごしているのかが、とても気になりました。

### 分散登校はよかったけど…



もう一例、これは昨年度末に、ある中学生のお母さまにうかがったお話。「6年生の終わり頃から登校しにくくなりました。小学校の卒業式はかろうじて出席して、4月に中学校に入学しました」「4月、5月は週に1日だけの登校で、6月からは分散登校でした。分散登校のときは1日おきの登校だったので、休まずに登校できていました。このままうまくいくかしら…」と聞いていました。でもその

後通常授業になって、毎日登校となると、だんだん欠席する日が増えて、1学期の終わりにはとうとう毎日欠席ということに「2学期になって、ほぼ全欠席となった時に、ちょっと子どもにひどいことを言ってしまったんです。子どもの存在を否定するような…。私は声にはしませんでした。が、「ある、ある…」と思って聞いていました。「登校できそうと期待した後だったので、何かもうストッパーが外れたみたいに」。親は多かれ少なかれ、後になって「あれは言わなきゃよかったな」と言うことを子どもにぶつけていることがあります。「ひどいことを言ってしまったと、後悔しました。でも、分散登校では、すごく元気だったんですよ。また分散登校になったら登校できるのかしら…？」

分散登校というのは、2020年6月頃に全国の多くの学校で行われたクラスを半分に分けて、半分ずつ登校させた登校スタイルを言います。それ以前に長く不登校だった子どもたちも、なぜかこの時は登校できた子が多かったと聞きます。教室がスカスカして、風通しがよかったからなののでしょうか。でもこのスタイルはほんの一時でしたから、通常授業になると、すぐにまた登校できなくなったようです。

## せっかくだから楽しむことに



3つ目の風景は、中学生と小学生がおられる家族のお話です。2020年の秋以降、学校では、「密」をさける授業を工夫されていましたが、行事も学年ごとに行われたりしていましたが、少し前から登校しづらくなっていた中学生の男の子は「先生から声がかかっても、学校に行こうとは思えなかった」ようです。母親は「休みたがっているのは、きつものすごくしんどいことがあるからなんだろうなと思うことにして、それなら、自分が仕事を休めるときは休んで、子どもと遊ぼうと…」。「で、キャンプ用品とか買いこんで、あちこちに車で行くことにしました。せっかく不登校になったんだから、この際、学校に行かないときにできることをしようと思って」と言われます。「なかなかそこまで思いきれない方が多いと思いますよ。学校のことが気になりませんでしたか？」と私が尋ねますと、「気にならないというウソになりますが、せっかくの機会だから」と、このお母さまは「せっかく」という言葉を何度も繰り返されました。「子どもと一緒にドライブするのは楽しかったし、次はどこへ行こうかなんて話もしていました。海や山は人もいなくて、子どもとナンテこともない話をして、ガソリン代以外はそうお金もかからなくて、いい思い出ができました」「なるほど、聞いているとすごく楽しそうですね」「今年度になってからはあまりキャンプには行けていないのですが、今になって子どもが『あのときは楽しかったな』とぼそつと言うこともあります。もちろん今も登校していませんけど…」

## コロナ禍とネガティブ・ケイパビリティ



コロナ禍の襲撃以来、大人も子どもも漠然とした不安の中、落ち着かない日々が続いています。先が見えないいらだち、宙ぶらりんな感じ…。そんな苦しさにとどこまで耐えることができるのか。ネガティブ・ケイパビリティとは、解決したいが、すぐにはどうしようもないことに耐える力を言います。未解決な問題に遭遇すると、解決を早く、早くと焦りますが、焦ると、かえって現実が見えなくなることもあります。コロナ禍に限らず、子どもの問題でも同じことが言えそうです。不登校の子どもに「なぜ登校しないの?」「いじめ?」「先生が嫌?」「学校に行けるにはどうしたらいい?」と問いかけ、無理やり早期に解決しようとしても、難しいことが多いと思います。3例目にあげた家族の「せっかく不登校になったのだから」と気持ちを切り替えたお母さまの向き合い方には清々しい印象を受けます。

わからないこと、あいまいであることに耐えて、「ここはじっくり何が大切か考えてみよう」と構える力が、私たちに今、必要とされているのかもしれない。

# 地域やまびこ教室

「地域やまびこ教室」では、但馬やまびこの郷のスタッフが県内5カ所に出かけ、体験活動や保護者交流会を行っています。第1回、第2回の様子と参加者の感想を紹介します。

## 第1回 県立尼崎の森中央緑地



土を集め、土の中にいる生き物や貝を虫眼鏡やマイクروسコープで見ました。木をのこぎりで切って、木の人形も作りました。

### ☆子どもたちの感想☆

- ・木の人形作りが楽しかった。
- ・虫の観察が心に残っている。



## 第2回 県立神出学園



犬やポニーなど、動物との触れ合い体験をしました。その後、体育館でスポーツも楽しみました。

### ☆子どもたちの感想☆

- ・犬とふれあったことが心に残っている。
- ・久しぶりに運動ができて良かった。



### ☆保護者の感想☆

- ・子どもたちがよくしゃべって楽しそうに過ごしているのを見ると来て良かったと思った。
- ・動物との触れ合いも運動も、本人なりにとても楽しんでいたのでホッとした。
- ・保護者交流会でさまざまな方の話を聞いたのが良かった。
- ・保護者が楽しそうにしていると、自然とみんな笑顔になっていた。



## 但馬やまびこの郷からのお知らせ

- ☆ 第3回 地域やまびこ教室 9月21日(火) 国立淡路青少年交流の家
- ☆ 第4回 地域やまびこ教室 10月26日(火) 県立山の学校
- ☆ 第5回 地域やまびこ教室 11月4日(木) 県立嬉野台生涯教育センター

上記の日程で第3～5回の地域やまびこ教室を行います。また、当所での体験活動も行っていますが、新型コロナウイルス感染症の状況等により、受入れ方法が宿泊か日帰りかわることがあります。ホームページに最新情報を随時更新していますのでご確認ください。不登校もしくは不登校傾向のお子さまのことでお悩みやご相談等ありましたら、お気軽に当所までご相談ください。



兵庫県立但馬やまびこの郷保護者向け機関紙「やまびこ」NO.47 ●令和3年9月  
●兵庫県立但馬やまびこの郷 ●〒669-5135 兵庫県朝来市山東町森字向山45-101  
●TEL(079)676-4724 ●FAX(079)676-4721  
●Email:Tajimayamabiko@pref.hyogo.lg.jp

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

03教②-020A4